

令和5年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【1年目】

P T A名	静岡県立静岡視覚特別支援学校 P T A					
学 校	対 象	<input checked="" type="checkbox"/> 視覚障害	<input type="checkbox"/> 聴覚障害	<input type="checkbox"/> 知的障害	<input type="checkbox"/> 肢体不自由	<input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚部	<input checked="" type="checkbox"/> 小学部	<input checked="" type="checkbox"/> 中学部	<input checked="" type="checkbox"/> 高等部	
	全校児童・生徒数	12名				

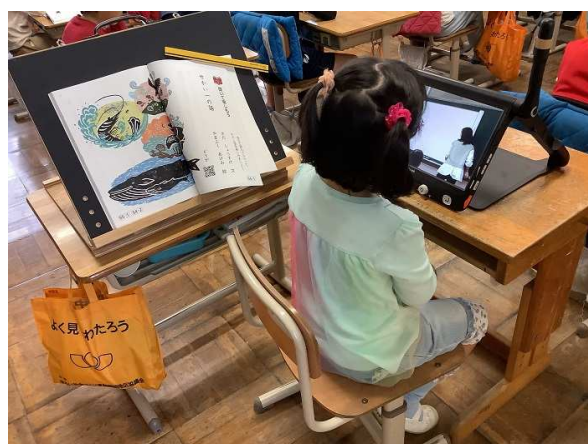
1. 使用状況

寄贈物品名	拡大読書器
使用学年及び人数	幼稚部3名、小学部5名、中学部1名、高等部3名
使用頻度	学習内容に応じて
使用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の学習を行っている弱視の児童が、交流時に使用している。遠方カメラで板書やプロジェクター画面などを拡大表示し、情報を得ている。ノートを書いたり作業をしたりする机と、クローバーブック(拡大読書器)を使って板書を見るための机2台を使用して学習している。 ・教育相談に来校した児童生徒が、作図、図表の読み取りや書き込み、裁縫 等、学校生活において活用が想定される内容を学習する際に使用している。 ・理解推進活動の一環で、視覚障害児者の支援に携わる保健、福祉、教育、就労等の関係機関を訪問する際に持参し、実際に使ってもらっている。
物品の使用による変化や効果	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動の時間に使い方を練習し、交流の際に持って行って学習に使っている。使用していくうちに、教師が黒板に書いた字が気になったり、教師の手の動きが気になったりするようになり、よく見て確認したい気持ちが高まっている。 ・教育相談では、在籍校での学習を先取りすることがあるため、拡大率を調節しながら見やすい大ききさで見たり、両手で操作しながら細部をじっくり確認したりすることで理解につながっている。 ・関係機関の方々にとっては、見えにくさのある方が、支援機器を効果的に用いながら学んだり、社会生活に活用したりしていることを知るきっかけになっている。
今後の活用の見通しや課題	<ul style="list-style-type: none"> ・遠くのを拡大して見るときにはよく活用しているが、手元を映して読んだり書いたりする場面は少ないため、今後は使い方を練習し、読書も楽しんでできるようにしたい。 ・教育相談においては、効果的な活用場面について他の児童生徒にも紹介していきたい。 ・中部地区管内の様々な関係機関に持参し、理解推進につながるよう努めたい。
その他 希望や所感など	

2. 活用の様子



交流時に、板書を映して見たり、スクリーンに投影される内容を確認したりして活用しています。角度調節により姿勢に負担なく画面を見ることができています。



教育相談行事の際に紹介コーナーを設け、児童生徒や保護者が試しました。「〇〇するときにあっという間」等と児童生徒と保護者が話し合う様子もみられました。



関係機関に向けた理解推進の際に福祉課やハロワーク担当者、保健師の方々が体験しています。

